

自ら「考える力」「工夫する力」「創造する力」を導くために 株式会社ノバレーゼ

●普及指導員派遣研修の狙い

(株)ノバレーゼのCSR活動

ウエディングプロデュース事業を行っている株式会社ノバレーゼ（以下、ノバレーゼ）では、2008年5月より開始した植林による環境保護のCSR活動「未来の森プロジェクト」を皮切りに、婚礼ビジネス・レストランビジネスにおいて、大切なお客様の未来をともに考えるCSR活動「未来の子供プロジェクト」と「未来の食プロジェクト」を2009年よりスタートしました。なかでも「未来の食プロジェクト」は、社員自身がそれぞれの立場で「感じて」、「考えて」、「体を動かして」、「伝える」という「自分が行動すること」に重点をおいたCSR活動としての人材育成を行っています。具体的には、同社スタッフが地域の農家と関わり、食や農の問題点に関する意見交換、農作業、収穫作業のお手伝い、協働による商品開発・販売など、地域の農家との関わりによって人材を育成する研修プログラムとして実施しています。ノバレーゼのCSR活動は、企業の人材育成により、自社内だけではなく関係企業や働く人が関わる全ての地域社会や組織において「動いて伝えること」を実践出来る人材を育て、それぞれが人として社会的責任を果たすことにより、結果企業が社会的責任を果たすことが出来るようになることに重きをおいて活動を継続しています。



WEDDING SPACE



WEDDING DRESS



RESTAURANT & HOTEL

ノバレーゼのCSRホームページ <http://www.novarese.co.jp/corp/csr/>

研修の狙い ～(株)ノバレーゼの想い～

今回の研修では、CSR活動を担当するノバレーゼの営業本部 広報・宣伝ディビジョンに研修受入先としてご協力いただきました。

研修の実施にあたり、プログラムおよびカリキュラム検討に際しては、研修に参加したあと普及指導員が現場で「実際の行動・実践に移してもらうための研修にするにはどうしたら良いか」ということを重点課題として、ノバレーゼ担当者として研修担当者である食農連携コーディネーター（FACO）との意見交換や議論を行って参りました。その中で本研修で受入担当企業として伝えたいことを研修を担当いただいたディビジョンマネージャー野原和歌さんのコメントとして紹介します。

『ノバレーゼのCSR活動は、人材育成の一環として実施しています。その実際のプログラムに参加していただくことでノバレーゼのスタッフが農家や地域の人と交流をすることによって起こる人々の気持ち・行動の変化を体感してもらいリアルな経験として持ち帰ってもらいたいのです。今までのCSR活動でノバレーゼが受け入れ先の農家・地域との関係づくりで常に大切にしていることを理解して欲しいと思っています。それは、CSR活動に関わる農家・地域の人々そして今回は、参加くださる普及指導員が①夢や志、誇りのある仕事をする事、②人と地域が互いに成長し続けること、③地域のコミュニケーションが活性化することが基本にあります。現地での研修では、その「気持ち」を大切に、具体的な行動を起して、具現化するために「地域の意識醸成」「地域における役割分担」「地域の人々のモチベーションコントロール」を導く方法を身につけて欲しいと考えています』

ノバレーゼのCSR活動の事例を通じて、自らが「考え」、「意見」し「農業者や地域の具体的な課題解決をサポートする立場」で第1次産業に関わるファシリテーションの手法を理解し、「ノウハウ」ではなく、自ら「考え」、「工夫」し、「創造」する力を導き出す課程を実際のノバレーゼの研修プログラムに参加し、その経験を実際の現場で応用していただく手法を身につけ、各地で実践していただきたいと願っています。今回の研修参加者である普及指導員のみなさまにノバレーゼの活動を知っていただくことで、今後の6次産業化の展開事例として、第1次産業だけが努力・工夫するだけでなく、第1次産業以外の業種・業態がそれぞれの得意分野を活かし、連携することで、より付加価値の高い商品やサービスひいては地域の魅力をお客様に提供することにより様々な企業が関わりやすい環境を作り出し

て欲しいと願っています。企業がCSR活動として第1次産業との連携を強くし、地域の活性化に関わりやすい社会環境が作られ、各地で企業が地域の取組みに関わる事例を推進できるような研修内容としました。

●実施準備・検討過程

今回のノバレーゼでの研修は、通常のノバレーゼ社員対象のCSR研修へ普及指導員に参加してもらいながら、並行して普及指導員向けの研修を実施するという形にしました。よって参加メンバーは、ノバレーゼの社員16名に研修受け入れ先の静岡県沼津市重須のみかん専業農家11戸と、従来よりCSRプロジェクトの商品開発に関わってもらっている静岡のソースメーカー、他地域でノバレーゼのCSR研修に関わる農家と普及指導員（秋田県/茨城県/富山県/島根県/

ノバレーゼ研修プログラム(実施期間:平成24年12月10日～12月13日)

第1日 12月10日(月)11:00～21:00	第2日 12月11日(火) 8:00～20:30
11:00 オリエンテーション 自己紹介ワークショップ「私の履歴書」 事前課題1「農家の豊かさ」についての発表 12:30 昼食 13:30～18:00 ノバレーゼの事業概要と地域活性化の事例共有 ・重須におけるノバレーゼスタイルの地域の活性化 (1)本当の課題を明確にし、共有にする 「チームビルディング」 (2)目標を設定する 「ビジョンメイキング」 18:30 夕食 19:30～21:00 農事組合法人「おもす」の理事と青森のCSR受入農家/ 風丸農場・白神アグリサービスさんの座談会 ・受入れ農家側からノバレーゼのCSR活動による 地域の変化を聴く	8:00 ・事例共有 ノバレーゼスタイルの課題解決のレクチャー ワークショップ 事前課題2「これが買いたい」よりベスト提案づくり 11:30 昼食 12:30～13:30 ノバレーゼ社員の座学研修に参加 13:45～16:00 担当みかん園地にノバレーゼ社員と 同行し収穫実地研修 16:00～18:00 入浴・夕食 18:00～19:00 ノバレーゼ社員「これが買いたい」ワークショップ見学 19:00～21:00 農事組合法人「おもす」の受入担当理事夫妻・商品化の パートナー トリイソースさんも交え商品化にむけた課題を 共有するワークショップ ○振り返りと明日の課題設定
第3日 12月12日(水)7:30～20:30	第4日 12月13日(木)7:30～15:30
7:30～16:00 担当みかん園地へノバレーゼ社員と同行し収穫研修・ 昼食は、各受け入れ先農家にて 16:30～18:30 入浴・夕食 18:30～19:00 ノバレーゼ社員向け「これまでの商品作りの歩み」 レクチャー 18:30～20:30 グループワーク 受け入れ農家も交えた商品作りワークショップを見学 20:30～22:00 受け入れ農家との懇親会 ○振り返りとコミットメント	8:00 ノバレーゼのブランディング 「伝える」から「伝わる」 ○研修の総括・まとめとフィードバック 12:30 昼食 14:00～15:30 受入農家とノバレーゼ社員その他参加者によるの 研修 振り返り 16:30～17:30 ノバレーゼ社員の研修振り返り ●各自交通機関のスケジュールにて解散

岡山県/山口県) 6名という構成の研修となりました。またオブザーバーとして静岡大学・名古屋大学などの地域活性化を研究する大学生も加わりました。

本プログラムでは、商品創りのスキルだけではなく、本当の課題を明確にし、その課題の解決を農家主導で実践するためのファシリテート方法を身につけていただくことを目的としています。

別の言葉に置き換えると、農家とマーケット・出口を繋ぐ良き通訳者であり推進者となる具体的な方法を学んでもらいたいと考えました。「農家が主体となって自走する仕組みが知りたい」、「産物の新たな可能性を探る方法を知りたい」、「商品開発を中心とした地域活性の新たな方法を知りたい」、「地方と都市を結ぶ方法を知りたい」など、これらの課題に対しての解決方法をみつけてもらうためのプログラムとしました。また、地域での協働を具体化するために農家と企業との連携をサポートする方法も習得いただきたいと考えました。ノバレーゼ社員が農作業を通じた社会貢献活動に関わることで農家や地域を刺激し、自らで課題を解決するモチベーションを触発するノウハウ、企業が地域や農家に入ることによって活性化するポイントを、本プログラムに参加することで体感してもらいたいと考えました。

農作業・農業の現場を熟知された普及指導員にこの研修で身につけたノウハウがあれば、受講後、現場でスピーディな課題解決を実践してもらいたいと考え、構成しました。

●研修の実施状況

研修実施に向けたノバレーゼとFACOとの事前の検討を踏まえ、テーマに即した研修を4日間の日程で実施しました。今回の研修は、ノバレーゼ社員のCSR研修に参加することが軸となるため、その本研修がスタートする前日より普及指導員のためのプログラムをスタートすることにしました。

まず、ノバレーゼの事業概要や今までの地域活性化の取組事例を共有してもらいました。また、農家での実地研修に入る前に理解しておいて欲しい基本技術である「チームビルディング」、「ヴィジョンメイキング」のワークショップを実施しました。実際にCSR研修を受け入れている農家側からの意見をヒアリングしてもらう時間も設定しました。また、研修参加前に取り組んでもらった二つの事前課題について、設定テーマの意図や研修を実施運営する際の事前課題を設定する意義なども理解いただく時間を設けました。まず、普及指導員に研修に参加する側の気持ちに立ってもらい、その中で研修参加者としての気持ちの変化などを体験してもらい、研修を仕掛ける側の意図を理解してもらうようにしました。この手法を実際の現場で農家との取り組みに生かしてもらいたいと考えました。

研修二日目の午後からは、ノバレーゼの収穫プログラムに参加しながら、研修参加者としての当事者体験もしつつ、今後企業と農家や地域の関わり方をどのように推進していったらよいかということ



研修に参加の普及指導員・宿舎の前にて



初日実施の受入れ農家からのヒアリング



(左)プレゼンを真剣に聞く農家とノバレーゼ社員

(右)受入れ農家へ事前課題をプレゼン中の普及指導員

進者側の視線でも体験いただくようにしました。ノバレーゼ社員のみかん畑での収穫作業に同行し、その時間で農家とノバレーゼ社員との関わり方の実態を知ってもらい、その後、11戸の農家と実施する新商品開発のためのワークショップにどんな風に臨んでいるかという課程も体験してもらいました。実際に普及指導員が企業と連携して6次産業化を推進するためのノウハウの中でも、特に関わる人との関係のつくり方やそこに関わる人の気持ちの変化などにフォーカスをあて、研修してもらえるようにしました。農家も交えたワークショップでは、普及指導員には、オブザーバーとしてワークショップのファシリテーション方法を理解してもらうようにしました。ワークショップで取り組む課題に対して参加者が当事者意識をもって主体的にその課題の解決に努めるようになっていく気持ち・当事者意識を醸成させるファシリテーション方法を学んでもらいました。

普及指導員は、課題に対して答えを出す役割ではなく、その課題解決のプロセスにおいて農家・地域が主体的にものごとに取組む覚悟を決めるために必要なコミュニケーションの進め方をファシリテーションすることが重要であることを理解してもらいました。そのファシリテーション役をノバレーゼのCSR研修では、ノバレーゼ社員が農業研修の現場での会話やワークショップにおいてその役割を果たしている効果を理解してもらいました。

●研修の結果(アウトプットとアウトカム)

今回は、ノバレーゼ社員の農作業を通じた社会貢献活動に実際に関わることで農家や地域がどのように刺激され、農家自らが課題を解決しようとするモチベーションを触発するノウハウや企業が地域や農家に入ることで地域が活性化もしくは変化する実態を体験してもらいました。

研修後に受講された普及指導員から研修の振り返りレポートをいただいたところ、それぞれの現場で「今回の研修内容を早速実践しました」もしくは、



それぞれ担当のみかん園地で収穫作業に取り組む普及指導員



11戸の受入れ農家とノバレーゼ社員による商品開発ワークショップの発表会の様子



最終日のブランディング研修



ノバレーゼ社員との夕食風景



受入れ先農家での楽しい昼食の様子

「現場で実践したいので相談にのって欲しい」という報告などを早々にいただきました。

具体的な課題は地域によって異なると思いますが、この研修で得たノウハウやネットワークを大いに活用し、農業と企業の新しい連携の形をそれぞれの地域に応じたスタイルを見つけ、様々な企業が6次化に参画しやすい環境づくりの推進を各地で展開して欲しいと願っております。

文：民間企業等派遣研修〔株式会社ノバレーゼ担当〕
こめみそしょうゆアカデミー
フード&ホスピタリティコーディネータ 堀田 雅湖
(食農連携コーディネーターFACO)

